



Noguchi Times

Vol. 25 2019.7.4



2019年2月25日 浅野嘉久 喜寿のお祝いにて

CONTENTS

■ 『野口ビジネス交流会 2019年 冬』	P2
■ 『第2回 福利厚生EXPO』	P3
■ 『第2回 Asano Lecture』	P4
■ 『ハワイ大学 表彰式』	P5
■ 『医学交流活動-研修報告-』	P6
■ 『浅野嘉久賞 奨学金授与式』	P7

『野口ビジネス交流会 2019冬』

2019年2月21日（木）於：野口医学研究所 会議室

野口ビジネス交流会2019冬では、井上信一郎氏にご講演頂きました。以下ご報告致します。

『紙の時代から波の時代 そして「網の時代」へ』



株式会社NSCホールディングス&ニュース・サービス・センター
シニアプロデューサー（事業戦略担当）井上 信一郎

大手広告代理店 博報堂の支社長・新規開発部長・新聞局開発部長・スポーツ事業部長・文化事業局長などを歴任。
多様な経験と豊富な人脈を活かして創生期の携帯電話コンテンツの世界に転じ、将来性のある「携帯電話をデバイスとする無料ニュースジャンル」をプロデューサーとして創造・・・

《主な内容》

現在、「情報革命の時代」は恐るべき速さで進化しています。ネットメディアの主役はスマホ・タブレットになり「手のひらメディア」が世の中を変えようとしています。時代のトレンドは「繋がる→情報発信する→自己表現する」の時代から、「検索・お金の機能」と結びつき、AI技術やVR技術とも結びつき、全ての人の人生を変化させつつあります。まさに、『メディアのパラダイムシフト(※1)』の時代です。

ネット時代の本格的な幕開けの際言われた『①ネットの進化はドッグイヤー(※2)の速さで進む②需要と供給はダイレクトに結びつき中間の代理業の存在は無用になる。③大脳生理学から見ると近々記憶ビットの限界がきて無意識の忘却が始まる。④ネット情報は「ゲーム脳」で理解されるから恋愛小説を読んでも涙は誘わない。⑤検索では賢くならない。⑥個人情報とは大量に流失する。』という6つの予言は、今考えると多くの事項がその通りであったと思います。

実際に、新聞にも『メディアのパラダイムシフト』が数多く反映されているように思います。

例えば、かつて日本の広告費は日本のデパートの売上と同等と言われていましたが、昨今のデパート業界をみるとそうではないと思われまます。日本の総広告費が6兆円を超えたのが2014年、2019年にはネットの広告費がTVの広告費を抜くと言われてまます。まさに、メディアのパラダイムシフト、広告のパラダイムシフトが起こっていることが分かります。

毎日、無差別に様々な新聞記事が出ていますが、意味を理解するだけで人生が豊かになるのではないのでしょうか。

※1 パラダイムシフト：ある時代・集団を支配する考え方が、劇的に変化すること。

※2 ドッグイヤー：IT業界における技術革新の早さを表す言葉。通常7年で変化するような出来事が一年で変化すると考える。



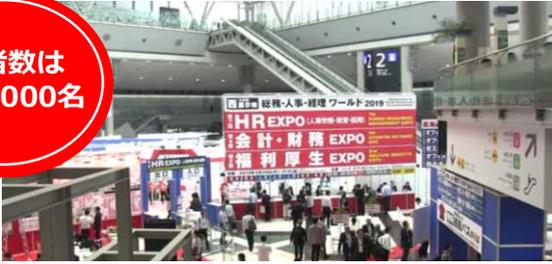
《講演中の様子》

『第2回 福利厚生EXPO2019』

2019年5月29日(水)～5月31日(金) 於：東京ビッグサイト 西ホール

一般社団法人野口医学研究所は、業界唯一の福利厚生・健康経営に特化した展示会『第2回 福利厚生EXPO 2019』に出展しました。展示会概要を以下にご報告致します。

来場者数は
約70,000名



展示会概要

「福利厚生代行」「健康経営」「育児・介護」「財政形成」「自己啓発支援」など、福利厚生サービスを取扱う800社が売上拡大・販路開拓の為、出展。

参加者

管理業務に課題を持った企業・官公庁・学校・病院の総務・人事・経営幹部の方々。

管理栄養士による健康サポートサービス

今回の展示会では、管理栄養士による健康サポートサービスをご紹介します。セミナー・個別相談・ニュースレターにより、働く皆様の食生活や生活習慣をサポートします。



▲商談の様子



▲健康サポートサービスフライヤー



Agesの数値をチェックし、老化物質測定を行いました！

野口医学研究所 ブースの様子



その他ご案内したサービス



- ・DR. ホットライン
- ・海外DR. ホットライン
- ・ストレスチェック
- ・薬剤師セミナー
- ・管理栄養士によるお客様代行サービス

野口医学研究所 ブースの様子



法人サービス部
メディカル営業チーム
榎本文彦

近年、様々な企業が健康経営に注目しています。今回初めての出展ですが、企業の福利厚生として総務、人事部へ野口の健康サポートサービスを広めていきたいと考えています。



健康・コンサルタント部
健康相談室
管理栄養士
木暮貴子

多くの人事・総務・経理に関わるご担当者様にお越し頂きました。野口の管理栄養士はお客様ご自身が実践でき、心身ともに健康になるプログラムを提供していきます。



『第2回Asano Lecture』

2019年3月5日(水) 於：Thomas Jefferson University (トーマス・ジェファーソン大学)

米国財団法人野口医学研究所(以下、米財野口)は、“Humanity & Empathy in Medicine” を理念として掲げ、毎年「Asano Lecture」をトーマス・ジェファーソン大学で開催しています。今回は、NPO野口医学研究所理事長・日本医学教育評価機構常勤理事の奈良信雄先生に講演をして頂きましたのでご報告します。

開会の辞



Mark L. Tykocinski TJU 医学部長

講演者紹介



浅野嘉久 米財野口 創立者



Charles A. Z. Pohl TJU 副医学部長



開会の挨拶では、Dr. TykocinskiよりJeffersonの国際的なRelationshipについてコメントがありました。現在Japan Centerの設立を皮切りに、イタリア・インド・イスラエルまで親交を広げていますが、特に日本は、野口医学研究所による“Humanity & Empathy in Medicine”における取組みが長年にわたり培われてきた為、今後も活動の幅を広げられる意向が述べられました。続いてJapan Centerのセンター長Dr. Pohlから米財野口創立者浅野嘉久の紹介を、浅野からは野口とJeffersonの関わりを過去の相関図で説明し、講演者である奈良先生の紹介へと続けました。

▶ Jeffersonの医学部関係者や研究員等が参加。

講演会



奈良 信雄先生

NPO野口医学研究所 理事長

日本医学教育評価機構 常勤理事

東京医科歯科大学を卒業し、血液内科学を専門に研究。その後医学教育の分野に力を入れ、東京医科歯科大学教授や順天堂大学の特任教授として医学教育のカリキュラムの立案や企画運営に携わる。富士研究所にて、日野原重明先生や尾島昭次先生と交流し、医学教育技法や評価法を学び、現在同分野の第一人者として活躍している。

『Innovation of Medical Education in Japan』

日本における医学教育の変革について

日本における「Humanity & Empathy」に通ずる文化の紹介

An example how we Japanese regard humanity and empathy as important

Sumo Wrestlers must master
 心 heart (humanity, empathy)
 技 skills
 体 physical strength

Physicians must master
 心 heart (humanity, empathy)
 知 knowledge
 技 skills

A film "Red bearded physician" directed by Akira Kurosawa

日本医学の歴史

Medicine in Japan had mainly been based on traditional Chinese medicine until 250 years ago. "Kampo" is sometimes used as an alternative medicine even today. However, medical physicians considered that anatomy was much important and they introduced European medicine from the Netherlands. They translated the Dutch textbook of anatomy in 1774.

日本の医学教育

宮沢賢治「雨ニモマケズ」

"STRONG IN THE RAIN"
 (By Kenji MIYAZAWA / Translated by Roger Pulvers)
 This poem shows the typical Japanese heart.

Strong in the rain
 Strong in the wind
 Strong against the summer heat and snow
 He is healthy and robust
 Free of all desire
 He never loses his generous spirit
 Nor the quiet smile on his lips

He eats a handful of brown rice
 Miso and a few vegetables a day
 He does not consider himself
 In whatever occurs... his understanding
 Comes from observation and experience
 And he never loses sight of things

『ハワイ大学 表彰式』

2019年5月28日(火) 於：ハワイ大学

創立者 浅野嘉久より、ハワイ大学医学部長 Dr. Hedgesへ、「Hedges/Izutsu/Asano Project」として10万ドルの小切手贈呈及び浅野が所有する株式会社野口医学研究所株300株の遺贈がされました。

表彰式について



①ハワイ大学からの歓迎

ハワイ大学より野口医学研究所職員への歓迎の印として、レイとギフトが手渡されました。



②小切手贈呈

小切手贈呈時には、浅野から株の遺贈について説明があり、ハワイ大学に対する誠意と今後の活動に対する期待の意が示されました。



①打ち合わせ

プロジェクトの具体的な取り組みについて、ハワイ大学から提案があり、質疑応答の時間が設けられました。



【左：浅野嘉久 右：Dr. Hedges】

今後も、野口医学研究所は、ハワイ大学との関係をより強化し「Humanity & Empathy in Medicine」に関わる活動を広げていきます。

Dinner with ハワイ大学関係者



ハワイ大学の医学部長や医学交流担当者が勢ぞろいし、Dinner Partyが開催されました。

「医学交流活動-研修報告-」

米財野口は36年間に亘り、医療従事者の海外留学を支援しています。今回は医学生ワークショップとパシフィックパートナーシップ2019の活動について報告します。

■ 医学生ワークショップ

2019年3月25日(月)～29日(金)
トーマス・ジェファソン大学にて

今年も3月に医学生を対象としたClinical Skills Programを実施しました。本研修では、米国に於ける病院での診察を見学するだけでなく、シミュレーションセンターでの実技体験や、ボランティアで行われている無料診療施設 (Jeff HOPE) での診察に関わることができます。実際にワークショップに参加した医学生の声(一部抜粋)をご紹介します。

アメリカの医療現場

学生が中心に活動しているボランティアクリニックに参加した。「ホームレス等、社会的に恵まれない患者さんが病院へ来ることができないならば私達から行く」という発想が斬新で、低学年のうちから実際に診察をすることはモチベーションに繋がり、素晴らしいシステムだと感じた。アメリカの医学生は、学生の時から将来医師として働く意識が高いことを実感した。

Jeff Hope

外来では、医師と患者さんの両方に笑顔が見られ、気持ちに寄り添いながら診察することの重要性をひしひしと感じた。1人の患者さんにかかる診察時間も膨大で、見学した日は4時間で3人ほどの診察のみだった。診察後のアセスメントもしっかりと説明していて、こんなに詳細に説明している外来は今まで見た事が無かった。患者さんとしっかりと向き合っている様子は大変に勉強になった。



■ パシフィックパートナーシップ2019

2019年3月7日(木)～23日(土)
マーシャル諸島にて

パシフィックパートナーシップは、東南アジア・南太平洋地域に於いて、政府・軍・NGO等の協力の下、医療活動、土木事業、文化交流を行います。米国海軍太平洋艦隊が2007年から実施している取り組みで、参加国の連携強化や国際災害救援活動の円滑化等を図る活動です。当財団は2015年よりNGOとして参加しています。



今回の診療活動は、これまで参加した国ほど、患者さんが殺到しなかったため、じっくりと診療ができました。マーシャル諸島では米国の肥満食、ソーダ、ビール、タバコ、ポテトチップス等が広く米国から輸入され、安価な為多くの人に食されており、生活習慣病、特に糖尿病が多いという状況でした。今後、心臓・脳血管障害が更に増えていきそうです。

日本の医師らは英会話力不足に加え、世界共通で行われるスタンダード医療が身につけていない医師が多く、世界から取り残されていく状況にあります。当財団では今後も英語でスタンダード医療ができる医師・看護師・薬剤師を養成し、英語力と指導力を兼ね備えた医療従事者を派遣して参ります。

米財野口野口医学研究所
理事長 佐野潔



『浅野嘉久賞 奨学金授与式』

2019年4月10日(水) 於：女子栄養大学・坂戸キャンパス

2019年4月10日(水)、女子栄養大学・坂戸キャンパスに於いて「第5回浅野嘉久賞」奨学金授与式が行われました。浅野嘉久賞は、大学院修士課程に進学する優秀な人材に対し、研究の質の向上と高度専門職業人養成を目的として授与するもので、今回より2名から4名に増員されました。

平成31年度第5回「浅野嘉久賞」授与者



浅野 嘉久

米国財団法人野口医学研究所 創立者・名誉理事
一般社団法人野口医学研究所 社員総代・相談役



奨学金受給者および女子栄養大学役員の方々

前列：女子栄養大学 副学長 五明紀春先生、女子栄養大学 学長 香川明夫先生、浅野嘉久、末永佳文
後列：女子栄養大学 常務理事 染谷忠彦様、女子栄養大学 大学院研究科保健学専攻主任 遠藤伸子先生
女子栄養大学 大学院研究科長 武見ゆかり先生、奨学金受給者、社田野口スタッフ

専攻・課程	氏名	研究室
栄養学専攻 修士課程	外川 恵さん	食生態学研究室
	古屋 愛美さん	栄養生理学研究室
保健学専攻 修士課程	鈴木 杏南さん	実践養護学研究室
	藤田 華子さん	疫学・生物統計学研究室

★卒業生が報告に来てくれました★

2019年3月20日(水)に平成29年度 第3回「浅野嘉久賞」受給者の佐々木奈緒さん、上原綾さんが卒業の報告と挨拶に来社されました。佐々木さんはJAICA海外協力隊で生活改善普及員としてドミニカ共和国に渡り、上原さんは行田市の養護教諭として活躍されるそうです。佐々木さんから「金銭的理由で大学院への進学を諦めかけていたが、この浅野嘉久賞のおかげで大学院に進学できた、本当にありがとうございました。」という感謝の言葉がありました。野口医学研究所はこれからも熱意ある学生を応援していきます。





野口英世記念

野口医学研究所

Noguchi Medical Research Institute Since 1983

NOGUCHI TIMES Vol. 25

発行日 2019年7月4日
発行人 浅野 嘉久
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-12-9
スズエ・アンド・スズエビル 4階
代表電話 03-3501-0130
株式会社野口医学研究所
<http://www.noguchi-net.com>
